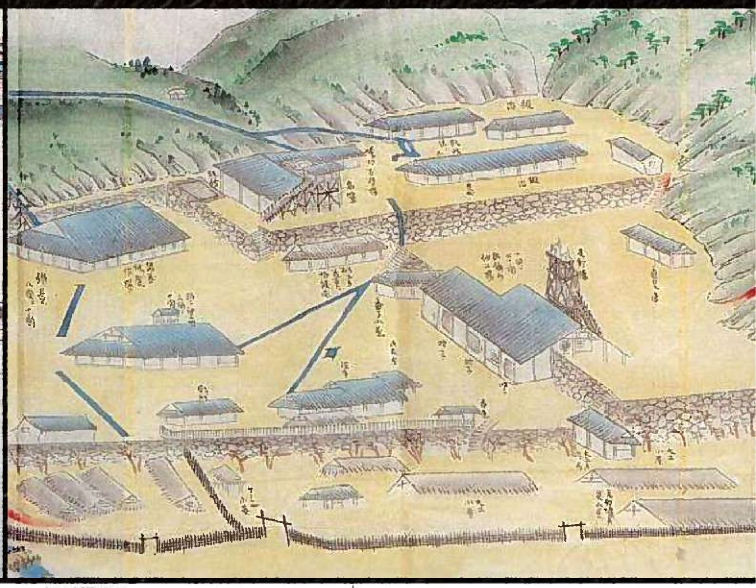
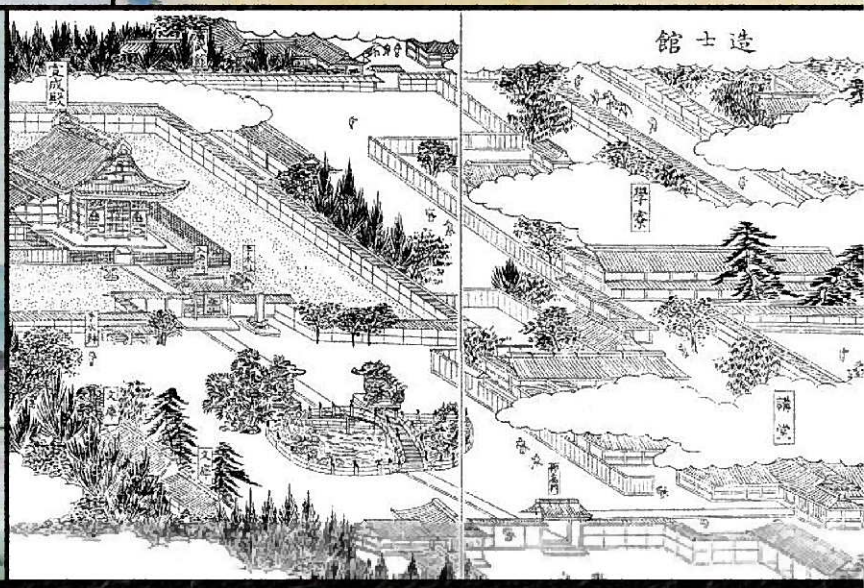
明治維新150周年記念事業

明治維新と郷土の人々





鹿児島県

【表紙写真】

左上：「島津斉彬公御取立騎兵操練図絵巻」【尚古集成館保管】

右上：「薩州鹿児島見取図」【武雄鍋島家資料・武雄市蔵】

左下：「琉球嶌真景」【名護博物館蔵】

右下：『三国名勝図会』より造士館図

ごあいさつ

本県では，平成30年に明治維新150周年の節目の年を迎えるに当たり，明治維新という時代の大きな変革期における郷土の先人たちの志や偉業を見直し，我々鹿児島県人が今後進むべき方向性を改めて考える契機とするため，平成26年度から平成27年度までの２か年をかけて，専門家からの助言もいただきながら調査等を実施し，このたび『明治維新と郷土の人々』として取りまとめました。

取りまとめに当たり，当時の郷土の人々の生き方について探るため，「明治維新と武士」，「明治維新と市井の人々」，「明治維新と女性」，「明治維新と子ども」のテーマを設定しました。

これまで，明治維新における薩摩藩の活躍は，第11代藩主 島津斉彬や西郷隆盛，大久保利通などを中心に語られることが多くなっていますが，今回はこれに加え，家老や郷土の役割を含め，これまであまり知られていなかった人物も取り上げるとともに，藩の組織･機能上の特徴にも着目し，薩摩藩が明治維新において重要な役割を果たし得た要因をはじめ，当時の市井の人々の暮らしや女性の生き方，子どもの教育などについて，新たな史料の収集･解読等を含む調査を行い整理しました。

この『明治維新と郷土の人々』が，今後の明治維新に関する研究の活性化につながることを期待いたします。

また，県民の皆様に当時の郷土の先人たちの生き方に思いをはせていただくきっかけになるとともに，平成30年の明治維新150周年に向けた機運の醸成に資すれば幸いです。

平成28年２月

鹿児島県知事　伊藤 祐一郎

はじめに

薩摩藩が明治維新において重要な役割を果たし得た要因について，通史においては，第11代藩主 島津斉彬や西郷隆盛，大久保利通といった下級武士の活躍を中心に語られることが多かった。

『明治維新と郷土の人々』は，これに加え，上級武士や郷士の役割といった薩摩藩の組織・機能上の特徴についても整理するとともに，武士，市井の人々，女性，子どもなど，当時の鹿児島の人々にとって，明治維新がどのようなものだったのかということを，最新の研究論文や学識経験者への意見聴取，新たな史料の解読などを基に取りまとめたものである。

「明治維新と武士」では，薩摩藩の学問的背景や，幕府・朝廷との関係，琉球等を通じた海外情勢の把握，人材の登用や財政改革，家老や郷士の役割等，薩摩藩が世界の潮流を踏まえた上で挙藩体制を確立し，「新たな国家を建設」するため，明治維新において重要な役割を果たし得た要因について明らかにした。

「明治維新と市井の人々」では，経済的な面で藩を支え，明治維新という激動の時代を生きた市井の人々の暮らしについて整理した。特に，琉球・奄美と本土を結ぶ海運を担い，藩の財政に大きく貢献した商人や，我が国の産業の近代化に大きく貢献した技術者たちについても，新たに着目した。

「明治維新と女性」では，武士の母の家庭教育に対する心構えや，武士の妻として夫を支え，文化・教育などの面で活躍した女性，男性とともに暮らしを支えた農村の女性の生き方などを明らかにした。また，明治維新後の女子教育についても取り上げた。

「明治維新と子ども」では，子どもの教育という観点から，薩摩藩の海外に目を向けた人材の育成や藩校での教育，鹿児島独特の郷中（ごじゅう）教育に着目し，鹿児島から明治維新において活躍する人材を輩出した背景を明らかにし，併せて，幕末から明治初期にかけての庶民の教育にも触れた。

なお，明治維新は一般的には嘉永6年（1853年）のペリー来航から，明治10年（1877年）の西南戦争までを指すことが多いが，『明治維新と郷土の人々』では，薩摩藩の財政基盤となる調所広郷（ずしょひろさと）による天保の改革が始まった文政12年（1829年）頃から，西南戦争が終結し，地租改正や教育の充実など明治維新に伴い庶民生活が本格的に変化し始めた，明治20年（1887年）頃までを取り扱うこととした。

目　次

Ⅰ　明治維新と武士 …… 1
［要点］ …… 2
1　薩摩藩の学問的背景 …… 3
2　幕府・朝廷との関係 …… 13
3　海外情勢の把握 …… 19
4　薩摩藩の組織体制 …… 28
5　家老等の役割 …… 35
6　郷士の役割 …… 38

Ⅱ　明治維新と市井の人々 …… 47
1　幕末期の庶民の暮らし …… 48
2　明治維新後の庶民の暮らし …… 73
3　奄美・琉球と商人 …… 82
4　近代化に貢献した技術者 …… 87

Ⅲ　明治維新と女性 …… 93
1　武士の母親 …… 94
2　武士の妻 …… 98
3　農村の女性 …… 104
4　明治維新後の女子教育 …… 107

Ⅳ　明治維新と子ども …… 111
1　海外に目を向けた人材の育成 …… 112
2　藩校での教育 …… 117
3　郷中教育 …… 120
4　庶民の教育 …… 122

資料 …… 131

本書で取り上げた主な人物 …… 158
参考文献一覧 …… 167
明治維新年表 …… 170
新たに着目した主な人物・史料 …… 171
おわりに …… 173

凡　例

＜本文について＞

- 各項目の冒頭に［　　］で示した箇所は，項目の概要である。
- ［　　］は，翻刻（古文書を活字に直したもの）である。【大意】は，概要をつかむ程度の内容である。
- ［　　］は，本文の内容に関するコラム（読み物）である。
- ［　　］は，本文に関するデータや資料である。
- 文頭に「◉」が付く文章は本文で，文頭に「・」が付く文章は「◉」の文章の例や説明である。
- 本文で用いた薩摩藩の歴史的用語の中で，以下のような複数の読み方があるものについては，本文中では括弧内の前者を用いている。なお，読み方が確定できない人名については，振り仮名を付けていない。

（例）　名頭（みょうとう，みょうず）　上町（かんまち，かみまち）　中宿（ちゅうじゅく，なかやど）
人配（にんばい，にんべ）　郷中（ごじゅう，ごうちゅう）　功才（こうざい，こうせ）

＜引用について＞

- 引用した書籍は，『書籍名』，著者名，（職名）の順で記載した。
- 引用した論文は，「論文名」，（『掲載書籍名』），著者名，（職名）の順で記載した。
- 引用した市町村郷土誌は，引用文の直後に出典を記載した。
- 引用した史料のうち，刊本になっている史料は『史料名』，それ以外は「史料名」で記載した。

＜職名について＞

- 学識経験者から意見聴取をした中で寄せられた見解は，人名と職名だけを記載した。
- 学識経験者の職名については，現職の職名を優先した。ただし，大学の名誉教授については，現職の後に並記した。なお，職名が３つ以上ある場合は，代表的なものを２つ記載した。
- 故人の職名については，最終の職名を基本とした。ただし，大学の名誉教授については，優先して記載した。また，名誉教授にはならず複数の大学に勤務した場合，長い期間勤務した大学を記載した。

＜翻刻について＞

- □は文書の破損もしくは虫損等で文字の有無が分からない箇所，■は文字はあるが解読ができない箇所を指す。
- 助詞の「ニ，而，茂，者，江，与」は，それぞれ「に，て，も，は，へ，と」に直して表記した。
- 古文書の「〳〵」は，文字の繰り返しを示す記号であるが，本文が横書きのため「々々」で示した。
- 古文書に用いられる「ゟ」は「より」，「〆」は「として（にして）」に直して表記した。
- 古文書の文中の割り注は，小文字で表記した。
- 原文が明らかに誤字と判断できる箇所は，訂正した箇所がある。また，句読点は新たに補った。
- 文字については，原本の古文書が正字（旧字体）で記載されているものも，常用漢字に直して記載した。
- 本書では，幕末に鹿児島を訪問した秋月悌次郎の「観光集」，明治20年代に宮之城の小学校に勤めた本富安四郎の『薩摩見聞記』を引用しているが，これは原文を忠実に翻刻したものではなく，要約，意訳をしている。また，外部の人物が見聞した当時の鹿児島の様子であり，実態と異なる可能性があることに留意していただきたい。

※　本書における史実や名称その他の表現については，引用文献（市町村郷土誌ほか）の記述を尊重し，そのまま使用しているものもあります。